

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200760		
法人名	医療法人社団 豊生会		
事業所名	グループホーム すぎの子の家		
所在地	札幌市東区東苗穂3条1丁目10-2		
自己評価作成日	平成22年10月4日	評価結果市町村受理日	平成22年12月1日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://77.system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0170200760&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成22年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

散歩や歌など、アクティビティの機会をできるだけ多く持つようにし、入居者様がゆったりとした雰囲気の中で日々過せるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「すぎの子の家」は閑静な住宅街にある3階建ての建物で1階は保育園、2～3階がグループホームとなっている。近隣には商店、スーパーがあり、利便性に恵まれている。運営母体は医療法人で、東区の総合病院を中心に、市内はもとより、近郊まで多方面に各種の事業展開をしており、医療と介護の協力、連携がなされているのが特徴である。医療介護を融和した独自の記録表で、利用者個々の身体状況を適切に把握し、健康維持増進に効果をあげている。「ゆっくり・一緒に・楽しく豊かに」をモットーに掲げ、質の高い介護を行ない、利用者の表情は明るく、家族の信頼は厚い。管理者はじめ職員は内外の研修会に参加し、全国大会で事例発表を経験する等日々研鑽しサービスの質の向上に努めている。災害対応については、建物内部の不燃化を図ると共に、訓練の実施や避難経路の確認、近隣住民への協力体制を強化して備えている。地域との交流では玄関横に掲示板を設置し、医療、介護、福祉に関する情報を地域に発信する他、AEDを配置し、地域資源として有効に利用するよう案内している。地域の人々に信頼され安心して生活を支援している事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各フロアにも掲示しており、スタッフ一同理念を共有しあって日々取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえて独自の理念を策定し掲示している。管理者と職員は会議等で周知を確認し、安心できる地域生活の継続を支援するケアの実践に繋げている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などに出かけた先で、地域の方と挨拶や会話をしたりしている。	町内会に加入し行事に参加している。事業所主催の夏祭りには地域の人々が参加している。屋外掲示板に医療、介護情報を掲示し地域との繋がりを大切にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	健康教室などで講演を行ったり、掲示板の利用などをしながら情報発信している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見などをスタッフにも伝え取り組んでいる。	会議は定期的に行われ、包括職員、町内会役員、家族、事業所職員が参加し議事内容を記録している。災害訓練、事業所運営等について話し合いサービス向上に反映させている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事例発表の機会を利用しながら報告し取り組んでいる。	行政とは日頃から情報交換や相談の機会を設け連携を図っている。市のグループホーム管理者会議や区主催の連絡会等に参加し意見交換を行っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について正しく理解し、身体拘束をしないケアに日々努めている。	身体拘束について研修し理解を深めマニュアルを整備して職員間で共有している。玄関は施錠せず、自由な雰囲気大切に安全に配慮しながら身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加したり、スタッフ同士注意を払いながら防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要とされる方はいないが、必要なときには話し合いの場や、活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に書面などにして十分説明を行い、理解していただけるように努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置もしていると共に、来訪時や運営推進会議などでも意見など発言できる場を設けている。	意見箱を設置し、面会時や運営推進会議で要望や意見の聴取に努めている。事業所内の相談窓口や外部への苦情相談機関を明示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや、カンファレンスにて話し合いを行なっている。	代表者や管理者はミーティングやカンファレンスで話し合いを行い、職員の意見や要望を聞き運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職能評価し、努力や実績など把握している。また、個々に目標設定し、向上心を持って働けるようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会の情報をお知らせし、参加を勧めている。また、外部からの講師の勉強会も積極的に行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス向上のため、連絡会や、会議などに積極的に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面接で、情報収集しながら信頼関係を築きホームで安心して、生活を始められるような環境を準備している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談には、十分時間をとって不安や、ニーズについて情報収集し、安心して利用していただけるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との話し合いの中でケアの方向性を検討し、状況に応じた色々なサービスの中からより良いものを提案し、取り組んでいる。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができそうな日常の活動には参加していただき、一緒に食べたり、レクリエーションや談笑して、共に過ごす雰囲気を大切にしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時には、情報交換を行い要望を聞くと共に、支援の提案も行い本人の生活をより良いものにしていけるよう努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人家族から、事前に情報収集を行い希望があれば支援していく準備はあるが現在特に要望される利用者はいない。	利用者の生活暦を把握し馴染みの友人や家族との関係が継続されるよう支援している。又来訪者にはゆっくり寛げるよう配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の情報は職員が常に共有し合い、利用者が複数で参加する活動の場などを設けながら良い関係を維持できるよう見守りやスタッフも介入しながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じ相談にのるなどの支援に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話より意向を読み取るよう努めている。困難な場合は、家族に話を聞くなど本人本位に検討している。	日頃の会話や関わりを通して利用者の思いや意向を引き出し、把握困難な場合は関係者からも情報を得て本人の意向を尊重して検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に話を聞くなど把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常時様子観察を行い、申し送りノート、カンファレンスで話し合い、情報交換を行い把握できるよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞きその都度、スタッフ同士話し合い一人ひとりに合った介護計画を作成している。	本人、家族の意見を聞き、介護記録等を参考にし、担当者を中心に職員会議で検討し介護計画を作成している。変化が生じた時は随時状況に見合った計画を作成している	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化でも記録に残すよう心がけカンファレンスなどで話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の車を利用し、外出したり、法人施設を利用しイベントを行ったりしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩などでの日々挨拶や、町内の方に協力していただき避難訓練を行なうなど取り組んでいる。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し、受診している。月2回の訪問診察や、必要に応じて電話相談や受診と適切な医療を受けられるよう支援している。	提携医の月2回の訪問診療により利用者の日常健康管理がなされている。本人、家族の希望や必要に応じ適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化も常に伝え、相談し対応している。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換、相談は常に行なっており、そうした場合に備えて必要な指導を受けるなどそれにより関係作りも行なっている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	情報を共有しながら、必要に応じて医療を交えてムンテラを行なうなど家族に説明しながら取り組んでいる。	重度化の対応については文書で確認している。変化が生じた時は医師、看護師、家族、関係者と話し合い情報を共有しでき得るだけの支援をしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急についての勉強会を実施している。また、症状別マニュアルを作成している。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフ間での避難訓練は定期的に行なっている。町内会を通して緊急時の救助の呼びかけを行い、訓練に参加している。消防隊より指導を受け協力体制を築いている。	消防署協力の下、年2回防災訓練を実施している。ホーム内の見取り図を色別して町内にも配布し協力を図っている。スプリンクラー設置を予定している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや対応の仕方には留意して行なうよう努めている。	職員は利用者の誇りを損ねないように言動に配慮し、書類、写真の扱いには個人情報保護を徹底している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ表出させ自己決定できるように個別に働きかけ対応している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の決まりごとではなく、個々のペースに合わせて生活していただけるよう心がけて努めている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、家族に対応していたっている。希望により、訪問美容を依頼している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の皮向きや、もやしのひげ取りなど簡単に出来る作業を手伝っていただいている。食後の食器拭きなどもしていただいている。	嗜好や身体状況に合わせて献立を作成し、力量に応じて食事の準備や後片付けを行なっている。共に食卓を囲む食事は楽しみになっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れた献立作りを心がけている。食事、水分量を記録している。また、定期的に法人内の栄養士の評価も受けている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床、食後、就寝前の口腔ケア、義歯洗浄を行っている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、失敗を減少させ自信喪失に繋がらないように対応している。	日頃の観察や排泄記録から排泄パターンを把握し、個々に応じた介助を行い、トイレでの排泄自立に向けて支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、水分摂取に気をつけている。日中は無理なく体を動かしていただけるような体操を取り入れている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在自ら希望する方はおらず、スタッフサイドからの声かけを行なうが拒否などあれば次の日に入っていたりなど対応している。	週2~3回の入浴を基本とし、回数や時間帯は個々の希望に沿っている。快適な入浴ができるよう言葉かけや浴室の清潔に配慮している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個人にあわせて休んで頂けるよう支援している。不穏時は付き添いなど行い安心できるように対応している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に処方内容が分かるようファイルを作り対応している。また、処方変更なども記録を行ないすぐに見直せるようになっている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝い、アクティビティなど個人が好きなことや能力を発揮でき、楽しめることを提供している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候を考慮し、心身の活性化に繋がるように日常的に近隣散策や買い物に出かけている。自然に戸外へ出かけられるよう心がけ、外食などの機会も設けている。	天候や個々の体調に配慮しながら近隣への散歩や買い物に出かけられるよう支援している。事業所行事の動物園見学や外食は楽しみとなっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が管理しているケースは少数であるが、おられ、でかけた時に買い物されている方もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望にあわせ、電話の使用もしている。手紙は、入居者は書くことが困難なため行っていないが、家族からの手紙などは手渡している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じたフロアの装飾など、工夫している。生け花、観葉植物を楽しめるよう留意している。	玄関内には子供の日本人形が飾られゆったりとした雰囲気が漂っている。居間には利用者のちぎり絵や作品を飾り、窓から見える中庭の榆の木は四季の表情を伝えている。採光、温度、湿度も適切で居心地良さに配慮されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、椅子があり穏やかに談話したり、テレビ、音楽を楽しめている。スペースが無く、一人になれる場所の確保は不十分になっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者個人の使い慣れた生活用品を持ち込んでいただき、なるべく自宅に近い雰囲気でも過ごしていただくよう心がけている。	居室は全て出窓が設置されており採光に恵まれている。使い慣れた家具や馴染みの品を持ち込み安心して暮らせるよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室など各場所に手すりなど設置しているが、不十分なところもありスタッフの介助にて対応している。又、表札なども利用し場所が判るようにしている。		